

## チーム医療：NST回診（NST運営委員会）

### —概要—

2014年4月に、前任の水野 均先生の転出に伴い、飯干がNST運営委員会委員長に就任した。また、飯干は泉州地区NST研究会の代表世話人も引き継いだ。2014年度の総NST回診件数は、りんくう総合医療センター665件、泉州救命救急センター404件であった。

2014年6月より栄養サポートチーム加算を算定できるようになった。これには、長年のNSTの各メンバーによる努力が大きい。保険医、看護師、薬剤師、管理栄養士それぞれが資格を有し、共同して診療を行うことが必要であり、栄養評価指標のための検査環境を整備し、患者説明の充実を果たし、患者さんと顔を合わせる回診内容を模索し、言語聴覚士等の協力を仰ぎ、各方面からの協力により成り立っている。本年度は、合計247件の栄養サポートチーム加算を算定できた。

当院は日本静脈経腸栄養学会の栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設であり、2014年度はNST専門療法士研修会を2回開催し、院外から計5名の参加を得た。

また、当院は泉州地区NST研究会の代表世話人を務めてきている。さらに、日本静脈経腸栄養学会のNST専門療法士認定制度において泉州地区NST研究会が認定されており、参加することによって2単位を取得できるようになっている。2015年3月7日には第20回泉州地区NST研究会の記念大会が行われた。

院内ではNST勉強会が2回行われ、栄養の基礎知識や最新情報の提供が行われた。NST運営委員会には、栄養アセスメントグループ、マニュアルグループ、セミナー学習会グループ、摂食・嚥下ワーキンググループが存在し、それぞれ真剣に取り組んでいる。

### 当院NSTにおける現在の問題点と新しい流れ

- 1 低栄養で嚥下にかかわる筋肉の機能低下が起こると嚥下困難となり、低栄養がさらに進むという悪循環に陥り、誤嚥性肺炎も起こりうる。摂食・嚥下グループを中心に、嚥下の評価を行い、栄養を維持して嚥下筋の機能低下を防ぎ、また改善させ、悪循環からの脱却を目指している。
- 2 ERAS(Enhanced recovery after surgery)プログラムが広く行われるようになり、術後早期にリハビリを行うようにな

ってきたが、低栄養状態でいきなり行うリハビリは、かえって筋蛋白の分解をまねく。リハビリは栄養状態の維持とあわせて強度を上げていくのが理想的である。

- 3 侵襲の大きな手術に先立って、術前に栄養状態を持ち上げ、術前リハビリで筋力アップをはかると、術後の回復が早く、合併症も減少する等の報告がなされてきている。術前に介入するためには、今後、栄養管理体制、リハビリ体制の整備をしていく必要がある。
- 4 脂肪製剤の利用は、糖質中心の栄養輸液に比べて単位水分あたりの熱量が高いために、水分負荷の軽減となり、心不全や腎不全時に利点があり、ブドウ糖に比べてCO<sub>2</sub>産生量が少ないために呼吸不全に利点があり、インスリン非依存性であるために耐糖能低下時に利点がある。さらに、脂肪は心筋や骨格筋のメインのエネルギー源であり、心疾患、リハビリを要する患者さんには重要と考えられる。当院では、脂肪乳剤の使用がまだまだ普及しておらず、啓蒙活動が必要と考えられる。

### —実績—

#### NST回診件数

|     | チームりんくう   | チーム救命 |
|-----|-----------|-------|
| 4月  | 53        | 41    |
| 5月  | 76        | 44    |
| 6月  | 58 (4)    | 23    |
| 7月  | 31 (1)    | 44    |
| 8月  | 35        | 41    |
| 9月  | 62 (16)   | 26    |
| 10月 | 71 (33)   | 66    |
| 11月 | 51 (27)   | 13    |
| 12月 | 48 (36)   | 25    |
| 1月  | 57 (51)   | 24    |
| 2月  | 61 (35)   | 14    |
| 3月  | 62 (44)   | 43    |
| 合計  | 665 (247) | 404   |

※( )は加算件数

#### NST勉強会

| 開催日           | テーマ  | 講師                           | 場所       |
|---------------|--|------------------------------|----------|
| 10月10日<br>(金) | 『栄養療法の開始』<br>1.NST回診の依頼について<br>2.電解質異常時の栄養療法について | 外科部長<br>NST運営委員長<br>飯干 泰彦 先生 | 大会<br>議室 |
| 2月19日<br>(木)  | 『栄養の基礎／看護の視点で考える』                                | 看護局<br>褥瘡・NST委員会<br>石井 陽祐 先生 | 大会<br>議室 |

#### NST専門療法士研修会

##### 【院外】

|      | 開催期間             | 施設名    | 職種／人数    |
|------|------------------|--------|----------|
| 〈前期〉 | 6月5日～<br>6月13日   | 大阪労災病院 | 看護師/1名   |
|      |                  | 佐野記念病院 | 薬剤師/1名   |
|      |                  | 佐野記念病院 | 管理栄養士/1名 |
| 〈後期〉 | 12月4日～<br>12月12日 | 馬場記念病院 | 看護師/1名   |
|      |                  | 馬場記念病院 | 管理栄養士/1名 |

# 泉州地区NST研究会

| 開催日                   | 開催内容                                      | 講師                                      | 参加者数 |
|-----------------------|---|---|------|
| 第19回<br>10月18日<br>(土) | ＜一般演題＞                                    |   | 65名  |
|                       | 「当院における経腸栄養剤の使い分け～輸液の減量を目指し、水・電解質の補正を考える」 | 福外科病院<br>管理栄養士<br>後藤 啓太 先生              |      |
|                       | 「りんくうNST栄養サポートの現状」                        | りんくう総合医療センター<br>管理栄養士<br>宇野 妙子 先生       |      |
|                       | 「摂食嚥下障害患者に対する当院の取組み」                      | 野上病院<br>看護師<br>野尻 律子 先生                 |      |
|                       | ＜特別講演＞                                    |   |      |
|                       | 「超高齢化時代の摂食嚥下障害への対応:口腔ケア、栄養管理を含めて」         | 京都府立医科大学大学院<br>医学研究科教授<br>山脇 正永 先生      |      |
| 第20回<br>3月7日<br>(土)   | ＜一般演題＞                                    |   | 63名  |
|                       | 「当院における摂食嚥下障害患者へのチームアプローチ～急性期から在宅まで～」     | 市立岸和田市民病院<br>看護師<br>梅本 通代 先生            |      |
|                       | 「栄養管理によりQOL改善に至った褥瘡患者の一例」                 | 白井病院<br>管理栄養士<br>高井 美弥 先生               |      |
|                       | 「在宅におけるNST栄養サポート～大脳皮質基底核変性症の一例～」          | 希望ヶ丘訪問看護ステーション<br>原山台出張所 所長<br>大野 恭子 先生 |      |
|                       | 「当院におけるNST栄養サポートチーム回診について～看護師の役割を中心に～」    | りんくう総合医療センター<br>看護師<br>松本 有希 先生         |      |
|                       | 「摂食機能療法チームとNSTの連携の有用性について」                | 岸和田徳洲会病院<br>看護師<br>多持 康子 先生             |      |
|                       | ＜特別講演＞                                    |   |      |
|                       | 「静脈栄養、経腸栄養と腸管のバリア」                        | りんくう総合医療センター<br>外科部長<br>飯干 泰彦 先生        |      |



NST回診風景



NST勉強会風景